

海外の地方自治体

世界に扉を開く壮族の故郷

中華人民共和国

(財)自治体国際化協会北京事務所
調査員 李 曉潔

(チワン) 広西壮族自治区

広西壮族自治区は中国大陸の南端に位置し、ベトナムと国境を接している。最も美しいカルスト景観・桂林を有し、多くの少数民族人口を抱えるとともに、中国の「歌の神様」とされる劉三姉の故郷で昔から名が高い。20世紀70、80年代において、中国・ベトナム戦争で最前線に位置していた影響もあって、経済的には今なお立ち遅れているが、現在、西部大開発の熱気が高まる中で、ASEAN各国と中国との交流拠点として中国国内で注目を集めている。



概況

広西壮族自治区(日本の県に相当する)は「桂」と略称し、面積二三・六万km²、区都は南寧市である。広西は東は広東省と隣接し、南は北部湾に面し、東南は海を隔てて海南省を望み、西南はベトナムとの六三七kmの国境線を有している。国境、沿海、沿川という地理的利点を備え、最も簡単に海に出られる西南地区の交通の拠点となっている。

広西は低緯度で、気候は亜熱帯性の湿润型モンスーン気候に属し、冬は短くて暖かく、夏は長くて暑い。年間平均気温は一七・二二度、降雨量は一六〇〇〜二七〇〇mm、日照時間は一六〇〇〜一八〇〇時間、農作物が年間を通して収穫できる。

また、広西は中国で少数民族の人口が一番多い自治区である。総人口四七・三

省都・南寧市 眠らない「緑の町」

一六八〇年余りの歴史をもつ南寧市は、広西の西南部に位置し、ベトナムに非常に近いので、昔から軍事的な要衝となっており、一三二四年(唐朝)に、南寧という名前に変更された(中国南部が平穩・安寧であるという意味とのことである)。

人口は二九一万四一〇〇人(二〇〇〇年末)、そのうち都市部人口は九一万一〇〇人で、市街区総面積は一万一九km²。全市には三五の民族が居住し、その中で壮族が全人口の六割を占めている。交通面では湘桂(湖南省・長沙市)桂

万人(一九九九年)の中で、少数民族は一七九五万人、三八・一%を占めている。壮族が広西の主要な民族であり、広西総人口の三二・六%を占めている。

また、広西は豊富な自然資源に恵まれている。川が多く、一人当たりの水資源保有量は全国平均の二倍である。鉱物・海洋・植物・動物・森林等の資源も非常に豊富である。主要産業は水力発電を主とする電力工業、製糖業、非鉄金属工業、建材工業及び自動車を中心とする機械工業である。

広西には桂林两江国際空港、南寧、北海、柳州、梧州の五空港及び一〇九本の航空路線(国際線が五本)がある。日本との友好都市には、広西壮族自治区―熊本県、桂林市―熊本県熊本市及び北海市―熊本県八代市がある。

林市)、南昆(南寧市)雲南省・昆明市)鉄道などいくつもの幹線がここで交わり、その間を川が流れ、水・陸・空の交通の要所となっている。

緑の町といわれている南寧市は緑化率が三七%に達し、国家レベルのガーデン・シティとなっている。樹木が枯れた寒い冬の北京から飛んできた者には、暖かくて潤いのある南寧の至る所に溢れている緑や鮮やかな花などは大きな驚きだった。道の両側に並んでいる高い熱帯樹の下では子どもが遊んだり、年寄りがゆったりと散歩したりして自然に親しむ生

At the close of trading on Wall Street, the Dow Jones industrial average was up



↑防城港市・港の風景



↑東興市・ベトナム風の住宅

東興市——ベトナムとつながる掛け橋

東興市は中国大陸海岸線の最も西南端に位置し、ベトナムと隣接する。そのうち、海沿いの国境線が五〇km、陸地沿いの国境線が二七・二五km。東興市と、ベトナム最大の経済開放区である「芒街口岸経済区」との間には一本の川しかなく、兩岸はわずか一〇〇mの至近距離にある。

東興市は、一九九二年に東興・辺境経済合作区として設立され、一九九六年に政府により、県級市に昇格された。下には三つの鎮、三三の村があり、面積が五四〇・七km²、総人口が十一万人。

同市は中国唯一の京族の居住地である。京族はベトナム人と祖先を等しくし、生活習慣や建築等もベトナムとよく似ている。東興市に入ると、中国の他の地域では見られないフランス風の建物が目立つ。住宅には広いベランダがあり、青や

黄色等の鮮やかな色が多く使われ、ベトナムに入ったような錯覚を覚える。

近年、中国・ベトナム両国とも経済開放・振興政策を実施しているため、国境に位置する東興市には大きな発展のチャンスが訪れている。二〇〇二年に同市の輸出入取扱額が一・五八億ドルに達し、二〇〇一年と比べて七二％増加している。また、同市を經由してベトナムに行く観光客が非常に多く、二〇〇一年には延べ一二〇万人に達した。毎日、船に乗り、あるいは中国・ベトナム間の「友誼橋」を渡り、中国側で商売をするベトナム人も非常に多い。同市政府の紹介では、ベトナムは広西を発展の目標にして、「一〇年間で広西に追いつこう」というスローガンを出したそうである。今後、両地域は国境貿易を更に拡大させ、大きく発展していくと期待される。

おわりに

広西は、戦争で一九七〇、八〇年代の発展のチャンスを失ったが、西部大開発プロジェクト及び中国・ASEAN自由貿易区の計画とともに、他の中国沿海地域の発展の歩みを追いかけている。

九〇年代には、広西の経済も高度成長時代に入り、九一年から現在まで、各年平均の経済成長率は一〇％以上で、最も高い年が一六％に達する等、目覚ましい発展を収めている。また、近年、中国と東南アジアとの経済交流が盛んになってき

ているが、特に地理的優位性をもつ広西は、更に大きな発展の潜在力を秘めていると考えられる。更に、広西にはアメリカの大手飲料会社、フィンランドの携帯電話メーカー、韓国の自動車メーカー及び東南アジアのチャ・タイグループ等、二〇の国際的な大企業や多国籍企業の一部がその発展の潜在力に魅力を感じ、投資を行っている。

しかしながら、現在のところ、日本との経済交流はあまり盛んではなく、進出

企業は電機メーカー一社のみである。また、友好交流面でも日本との友好都市は三自治体しかない。広西の政府関係者は、日本に広西を広くPRし、他の日本の自治体とも積極的に交流を行っていきたいと願っている。

今回、美しい広西を視察し、その経済発展の歩みと文化的な多様性、素材で親切な人々に深い印象を持った。今後の広西の社会経済のより一層の発展を強く願う次第である。